

hunger free world

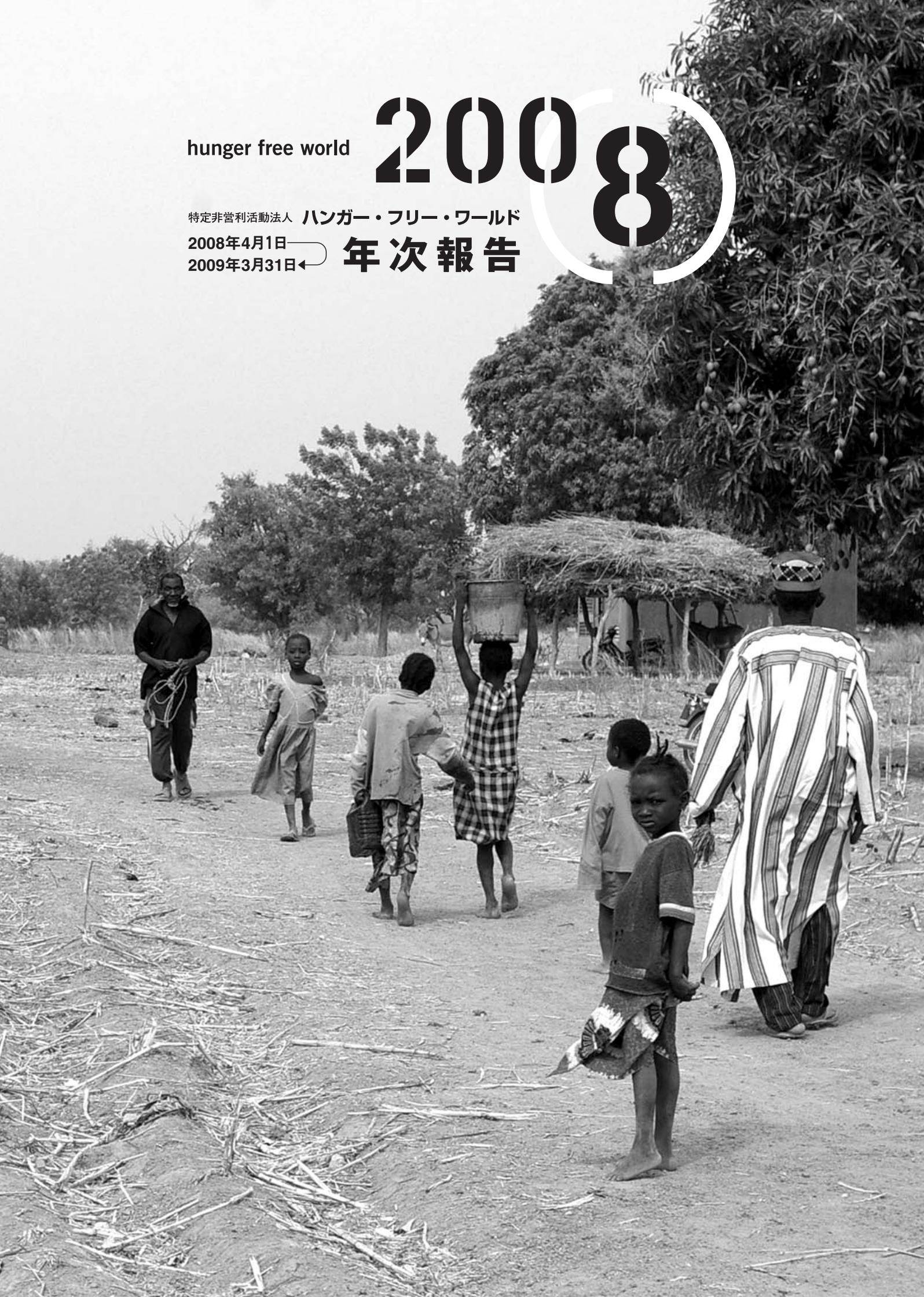
# 2008

特定非営利活動法人 ハンガー・フリー・ワールド

2008年4月1日

2009年3月31日

## 年次報告



# 飢餓のない世界の実現を、 「約束」で終わらせないために



ハンガー・フリー・ワールド（HFW）は、2000年の発足以来、開発途上国の人々の自立を支援する開発事業に取り組んで参りました。2008年度は、おかげさまでアジア、アフリカ4ヵ国で8万3970人の人々を支援することができました。

これも、HFWとともに支援を続けてくださるみなさまのおかげと、心より感謝申し上げます。

原油・食料価格の高騰などの影響で食料危機に直面した2008年、世界では、新たに4000万人以上もの人々が飢餓状態に陥りました。一方、2000年の国連ミレニアム・サミットや1996年と2008年の食料サミッ

トにおいて、世界のリーダーたちは、飢餓・食料問題を解決するさまざまな資金拠出や政策を約束しましたが、それらは十分に果たされていません。2007年からはじまった世界的な金融危機に対して先進国が行った大規模な財政出動を考えれば、飢餓・食料問題の解決は後回しにされていると言わざるをえない状況があります。

そうしたなかHFWは、国内外のNGOと連携し、日本で開催された第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）とG8北海道洞爺湖サミットにおいて、日本をはじめとする先進国の首脳に、飢餓の解決が政治の優先課題になるよう訴えかけるなど、世界のリーダーた



2008年度活動概要

## 飢餓に直面する 8万3970人を 支援しました。

### 海外の活動

HFWは、飢餓に直面する人々が、「食料への権利」という人間としてもっとも基本的な権利を取り戻すため、貧困地域を対象に開発事業を実施しています。

開発事業におけるHFWの支援方針は、支援が終了した後、永続的に飢餓のない社会を維持するために、地域の人々の自立を促すこと。そのために、「栄養改善」、「教育」、「保健衛生」、「収入創出」、「ジェンダー平等の推進」、「環境」の6分野で、包括的に地域住民を主体とした事業を行っています。

2008年度は、バングラデシュ、ベナン、ブルキナファソ、ウガンダの4カ国で36の事業を実施し、継続事業の質の向上や規模拡大に努めると同時に、新事業にも着手しました。ベナンでは幼稚園運営や識字教育などの教育事業を継続したほか、新たに男女の権利の平等などの権利啓発事業に着手（7月）。ウガンダでは、弱い立場に置かれた女性の自立を支援するため、女性を対象とした有機果樹の栽培事業の実施地域を拡大しました（7月）。

これらの開発事業に加えてアドボカシー活動も精力的に展開。バングラデシュ支部は、バングラデシュ国内の他団体と連携・協力した教育普及キャンペーンなどで中心的な役割を果たしました。

また、ブルキナファソ準支部では、2009年度の支部昇格に向けて準備を進めています。

### 国内の活動

HFWは、飢餓を自分自身の問題として考え行動するよう呼びかけるとともに、多くの人々が気軽に行動できる機会を広げるよう、国内の活動を展開しています。

2008年度は、数多くの活動説明会や講演会を行ったほか、飢餓問題に取り組む国際機関やNGOと「世界食料デー月間」を実施し（10～11月）、多くの人々に飢餓や食料問題について考える機会を提供しました。また、第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）とG8北海道洞爺湖サミットが日本で開催されたことを受け、飢餓の解決が政治の優先課題になるよう、国内外のネットワークと連携した政策提言活動に注力したほか、「STAND UP TAKE ACTION」実行委員会やCSR推進NGOネットワークのメンバーとして、飢餓や貧困問題解決のためのミレニアム開発目標（MDGs）の普及と達成に向けた取り組みも行いました。

定期募金制度「ひとつぶ募金」参加者の拡大に加え、書損じハガキなどの回収事業も継続。リーフレット、ホームページの刷新など、よりわかりやすい広報活動にも努めました。HFWの青少年組織ユース・エンディング・ハンガー（YEH）ジャパンが行った国内の広報活動、海外YEHの各国内会議開催のための資金調達活動等に対してアドバイスを行うなど、青少年の主体的な活動を支援しました。

組織運営に関しては、インターンの活用、専門家を含む多くのボランティアの参加によって、経費を抑えながら拡大する事業を推進することができました。

ちを動かすためのアドボカシー活動を精力的に展開しました。

私たちは引き続き、飢餓に直面する人々とともに活動すると同時に、彼らの声を発信し続け、世界のリーダーによる約束が「約束」にとどまらず確実に実行されるよう、飢餓のない世界の実現へ向けて前進いたします。

みなさまのHFWへのより一層の、ご協力ご参加をお願い申し上げます。

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド  
理事長 齊藤恵一郎

次のページから詳しく海外・国内の活動を記載しています。→



# バングラデシュ

持続可能な農業が、着実に地域に浸透。  
住民による3カ年の中期計画の評価も進んでいます。



活動するボダ郡、カリガンジ郡の23ヵ村で、17事業を実施しました。

持続可能な農業への取り組みでは、ボダ郡の農業訓練センターの運営を継続したほか、カリガンジ郡で同様のセンター建設準備を新たに進めました。両郡で農家対象の有機たい肥研修や交流会を実施したことで、活動地域に有機農業の重要性が浸透しています。

ボダ郡では、母子対象のヘルスケアセンターを本格的に運営開始し(12月)、地域の女性が衛生的な環境で出産を行えるようになりました。

アドボカシー活動では、独立50周年の2021年までにバングラデシュの飢餓を終わらせることを呼びかける「ビジョン2021」

キャンペーンを引き続き実施。その一環として、12月の国政選挙前には、各政党に飢餓をなくすことを公約に取り入れるよう呼びかけました。また、「MDGs達成に向けたNGOネットワーク」や「教育普及キャンペーン」などの実行委員を務めるなど、バングラデシュ国内のNGOネットワークにおいても中心的役割を担っています。

2008年度は、住民とともに策定した3カ年の中期計画の最終年にあたります。その評価を行うため、12月には職員が住民と会合を開いたほか、地元のNGOと意見交換を行いました。この結果をもとに、2009年度には新たな中期計画を策定します。

## 事業例



### 持続可能な農業普及のための農業訓練センター

HFVは2004年から、ボダ郡とカリガンジ郡で有機農業の普及活動をしています。今年度は、実つきが良く安価に入手でき、自家採取可能なバングラデシュ固有種の種子を国内各地から集めて両郡で配布。農家が、種を企業から購入しなくても、

自分たちで確保できるようになりました。

また、ボダ郡で持続可能な種子やこれからの農業のあり方について農家同士が意見交換を行ったほか(4月)、ボダ郡とカリガンジ郡の農家の交流も実施(9月、11月、2月、3月)。有機農業に対する知識と意識を相互に高め合う機会となりました。



### 母子対象のヘルスケアセンター

ボダ郡で、「母子対象のヘルスケアセンター(MCC)」を開設しました(12月)。この地域の女性の多くは、慢性的な貧血、栄養不良の状態にあります。出産の設備が整った医療センターは地域から20kmほど離れているため、きちんと教育を受

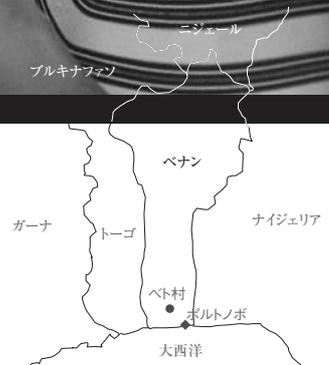
けた助産師の介助なしに出産し、産後の回復が難しく、命を落とす女性もいました。

MCCでは、週6日、看護師と助産師が常駐し、金曜日には医師による診察を行っています。これにより、女性たちが定期健診を受け、安全な環境で出産できるようになりました。



# ベナン

**教育への関心が高まっています。  
幼稚園児の数は1.5倍に、識字教室生徒は4倍以上に増えました。**



昨年度に続き、幼稚園運営、識字教育、キャッサバ加工を継続しました。

2006年度に開園したベト村幼稚園では、初の卒業生が小学校に進学。ほかの子どもたちに比べて授業態度や成績が優れていることが地域住民の評判となり、2008年度入園希望者が大幅に増加。定員90名に対して150名の申し込みがありました。教育の質を保つために入園者数の制限を検討しましたが、住民の幼児教育への意欲を尊重し、補佐教員を増やして希望者全員を受け入れました。識字教室では、卒業生を中心に識字の重要性を訴えるキャンペーンを実施（12月）。その成果もあり、2007年度は60名だった生徒数が280名に増えました。幼児教育、識字教育ともに、ベナンではまだ新しい分野である

ため、HFWが独自に制作したテキストや指導ノウハウなどが他地域へ普及することが期待されています。

キャッサバ加工は、事業への資金的な支援は行わず、2007年度まで取り組んできた研修の成果の確認と指導を行い、女性協同組合の自立を促しました。2008年度実施予定だった産院の建設は2009年度に延期。支援金の申請書類の準備などを慎重に進めました。また、人権を考える権利啓発事業を新たに開始しました（7月）。

運営面では、2008年4月2日に正式にベナン政府へのNGO登録が完了したことを受け、職員の社会保障の整備など、労務環境の改善に努めました。

## 事業例



### 幼稚園運営

ベト村幼稚園は、3名の教員で運営してきましたが、今後の円滑な運営を考え、園の責任者を雇用することを決定しました。これを受け、新たに園長舎を設置しました（2月）。

また、病気で休みがちの子どもがいたことから、

試験的に健康診断を行いました（2月）。ベト村には医療施設がないため、離れた地域の保健センターから医師と看護師を呼んで実施。身長・体重測定に加え、問診を行い、マラリアや下痢などの症状がみられた子どもたちには薬が処方されました。今後は、定期的な検診の実施を目指しています。



### 権利啓発

HFWが運営する識字教室の生徒が中心となって、男女の平等などの権利について考える啓発活動を開始しました（7月）。人権に関する法律を、習いたてのフォン語で勉強し、その内容を演劇で伝える研修を実施（7月）。さらに、住民の意識調査も

行い（1月）、女性の土地相続についての考えや出生届が出されている子どもの割合などの現状を把握しました。教育施設の整備や収入向上など生活環境の改善を中心に事業を進めてきましたが、今後は意識の変化、慣習の改善にも取り組んでいきます。



# ブルキナファソ

## 新しい組織体制の下、さらなる事業内容の改善を目指して評価活動を行いました。

2007年度の終わりに、新しい事務局長を迎え入れたブルキナファソ準支部。新体制の中、順調に事業を継続しました。クブリ郡の国営保健センター協力のもと行っている乳幼児と妊産婦対象の栄養改善事業（CREN）では、1年間に栄養不良児として登録された子ども343名のうち126名が栄養状態を回復しました。また、4年目に入った同事業を評価するために、利用者である母親や、保健センターのスタッフを対象に聞き取り調査を実施（3月）。今後は調査結果をもとに一層の改善を図っていく予定です。

小学校での学校給食提供も継続。井戸の故障などが原因で進んでいなかった学校菜園を開始しました。収穫物を給食に活用することで、より栄養価の高い献立を提供できるように

なりました。

活動地域内4ヵ村それぞれの協同組合に対しては、能力とニーズにあった収入向上のための支援を継続。農具の提供やマイクロクレジットなど、新たな事業を立ち上げました。

運営面では、新事務局長の下、組織運営や会計などの強化を図りました。経理ソフトウェアを導入し、会計処理の効率化と透明性の向上に努めました。また2008年度にブルキナファソに日本大使館が開設されたことから、今後の日本政府との連携強化も期待されます。



### 事業例



#### 学校給食

約280名の生徒たちが通うビシ村小学校で、学校給食の提供を継続しました。

2008年度は、生徒たちが運営する菜園が軌道にのり、キャベツ、ナス、タマネギなどを収穫することができました。水やりなどの菜園管理は3～

6年生の生徒が一週間ごとに交代で行っています。

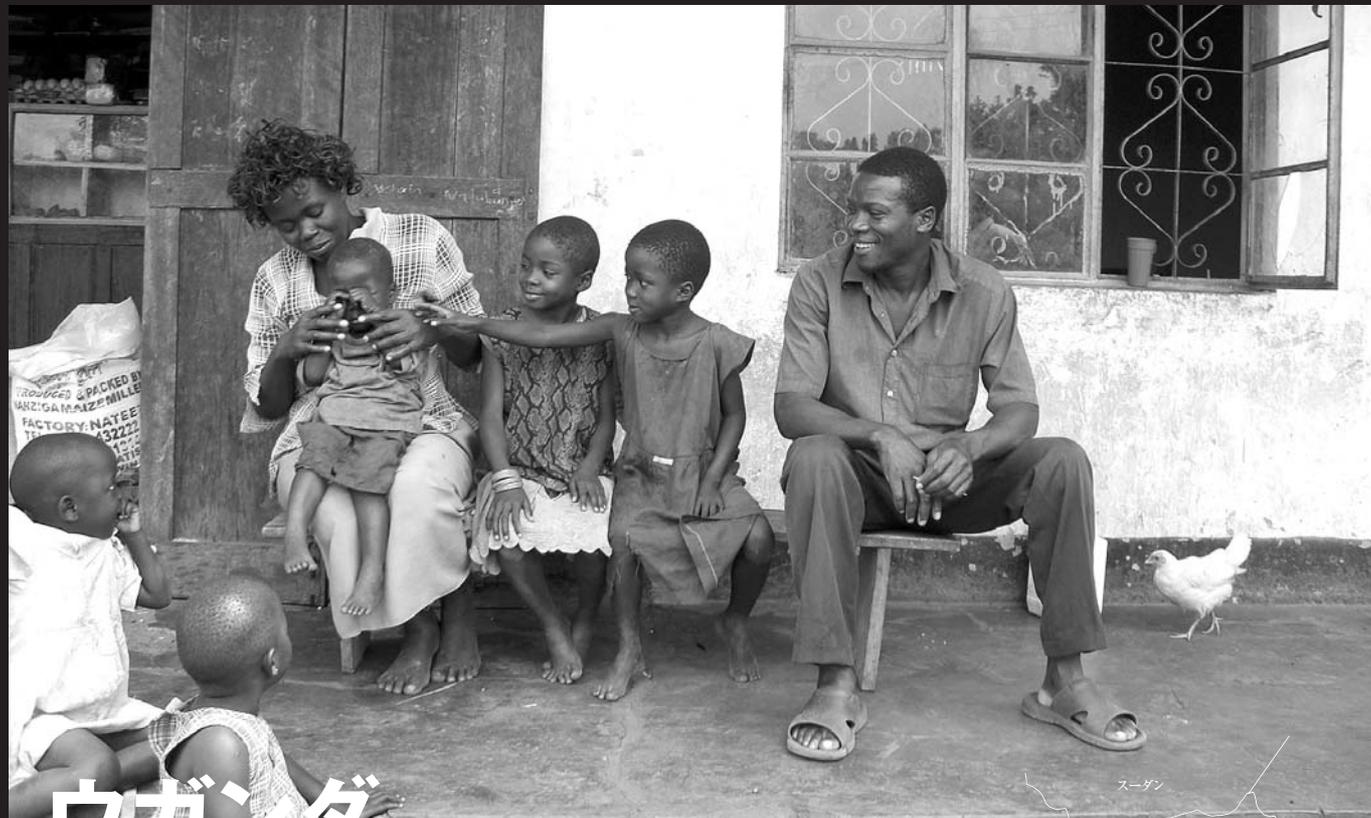
また、菜園の成功や学校給食を開始してから学校の衛生環境が改善されたことなどが評価され、郡庁から特別に時間割の変更が許可されました。昼休みを30分短縮して早く授業を終了することで、放課後に菜園の手入れができるようになりました。



#### 協同組合支援

ウェドビラ村で2007年2月に養蜂事業を開始し、一時は順調に収益を得ていました。しかし、気候の変化でハチミツの収穫量が激減し、収益がほとんど出ない状態になってしまいました。これを受け、同村協同組合を対象にマイクロクレジット（小

規模貸し付け）を開始（4月）。25名のメンバーを5グループに分け、各5万3000円を貸し付けました。その資金で米の加工・販売などの小売業を始めた女性たち。期限までに返済しながら順調に収益を上げ、「子どもが病気のときに薬を買えるようになった」などの声も聞かれています。



# ウガンダ



## 農業指導、井戸・トイレ建設事業を継続。 着実に成果があらわれています。

2007年度に続き、農業指導と井戸・公衆トイレ建設を継続しました。2007年度ルグジ区、ナッケデ区、トゥンバリ・ルウェンウェデ区の3区で行っていた女性対象の有機果樹植林を、地球環境基金の資金によりカブンバ区とカブブ区の2区にも拡大（7月）。HIV/エイズや内戦などで男性の働き手を失った家庭の女性の自立を促すとともに環境保全を図りました。

2007年度から継続している養鶏事業では、各世帯が飼育している鶏から生まれたヒナが成長して産卵を始めており、規模は順調に拡大しています。

YEHによる若者対象の職業訓練と収入創出としてパイナップル栽培事業を継続したほか、カブンバ区では新たに養豚事業（7月）を開始。今後、生まれた子豚を順次YEHメンバーに

提供する予定です。

カブブ区の水と衛生事業では、外務省の日本NGO連携無償資金協力による井戸16基、公衆トイレ7ヵ所が完成しました（9月）。

運営面では原油価格上昇と物価高騰の影響により財政的に苦しい状況が続きました。経費削減の一環として、賃料の値上がりが続いた事務所から、より安く条件のいい事務所に移転しました（3月）。

### 事業例



#### トモロコシ栽培・養鶏

ナッケデ区の貧しい40世帯を対象に、地鶏の飼育と、えさ用トモロコシの栽培指導を継続しています。2007年度に飼育を始めた各世帯6羽ずつの地鶏の卵をふ化場に集めてヒナをかえし、飼育する地鶏の数を平均25羽に増やしました（4月）。

その後、各世帯は、卵を産まなくなった地鶏を販売して平均11万5000シリング（約4775円）の収入を得たほか、残った地鶏が月120個ほどの卵を産み、うち90個を販売して得られる収入は1万5000シリング（約655円）と、2007年度の1.5倍に。残り30個は自分たちで食べて栄養改善に役立っています。



#### カブブ区水と衛生

カブブ区で、浅井戸16基と公衆トイレ7ヵ所を設置しました（9月）。設置後、住民による選挙で井戸とトイレの管理委員会を選出。HFWは、委員に対して衛生管理などに関する研修を行いました。これにより、6000名以上の人々がきれいな水と

衛生的なトイレを利用できるようになり、赤痢、寄生虫症などの病気の減少が期待されています。

今後は、活動地域の人口に適した数を設置できるよう井戸を増設するとともに、すべての市場や教会に公衆トイレを設置できることを目標に事業を進めていきます。

プロジェクト名/2008年度対象者数/  
 期間/2008年度支援額[単位:千円]  
**a.**会費・寄付から **b.**補助金・助成金額・助成団体名  
 (—:費用がかからなかった、または現地調達、  
 または前年度以前の送金による事業、  
 YEH:青少年組織ユース・エンディング・ハンガーによる実施  
 WEH:女性組織ウイメン・エンディング・ハンガーによる実施)



### Bangladesh

- 女性対象の職業訓練および権利啓発/150名/2001年4月~/**a.256**
- 安全 な水の確保と衛生環境整備/20世帯/2001年4月~/**a.93**
- 小学校運営/796名/2002年 8月~/**a.1,651**
- 養蜂/2003年 1月~/60名/**a.186**
- 小学校 での栄養改善及び健康管理/387名/2003年4月~/**a.941**
- 女性対象 の奨学金(ハンガー・フリー・ウイメン・スカラシップ)/73名/2003年4月~/—
- 農業協同組合 およびウイメン・エンディング・ハンガー支援/1,825名/2003年12月~/**a.713**
- 植林 および環境保全研修/745世帯/2004年4月~/—
- 子ども対象の奨学金(ハンガー・フリー・ワールド・スカラシップ)/111名/2004年4月~/—
- 女性対象 の起業無償支援/106名/2005年4月~/**a.2,944**
- 持続可能 な農業普及のための農業訓練センター/27,000名/2005年8月~/**a.5,003**
- 母子対象 のヘルスケアセンター/500世帯/2006年4月~/**a.232**
- アドボカシー活動/(不特定多数※)/2006年4月~/**a.1,726**
- 情報 センター・図書館運営/1,600名/2007年4月~/**a.1,203**
- リーダーシップ育成(YEH)/1,400名/2000年9月~/**a.104**
- 災害復旧支援 (YEH)/483名/2001年10月~/**a.34**
- 青少年対象 の啓発(YEH)/(不特定多数※)/2005年4月~/**a.128**



### Benin

- 女性協同組合によるキャッサバ加工/30名/2004年12月~/—
- 青少年 ・成人対象の識字教育/280名/2005年1月~/**a.3,728**
- 幼稚園運営/150名/2006年10 月~/**a.1,862**
- 幼稚園園長舎増築/150名/2008年10 月~11月/**a.2,312**
- 権利啓発/520名/2008年 7月~/**a.1,252**



### Burkina Faso

- 乳幼児と妊産婦対象の栄養改善(CREN)/17,126名/2005年10月~/**a.2,094 b.1,000** 地球市民財団
- 協同組合支援/175名/2006年 8月~/**a.1,569**
- 学校給食/280名/2006年10 月~/**a.1,754**
- 公衆 トイレ建設/2,328名/2008年11月~2009年3月/**a.1,584**
- 井戸建設/423名/2008年12 月~2009年1月/**a.2,165**



### Uganda

- 女性対象の有機果樹植林(WEH)/320世帯/2007年3月~/**a.3,080 b.1,243** 地球環境基金
- トウモロコシ栽培・養鶏/40世帯/2007年3月~/—
- カブプ区水と衛生/10,000名/2008年1~9月/**a.1,403**
- 井戸建設 ・管理研修/900名/2008年9~10月/**a.2,599**
- 小学校有機果樹植林/214名/2008年11 月~/**a.136**
- 小学校校舎増築/214名/2009年 2月~/**a.1,756**
- 子どもの権利啓発 /869名/2009年3月~/**a.382**
- 青少年対象 のパイナップル栽培(YEH)/50名/2006年8月~/—
- 青少年対象 の養豚(YEH)/20名/2008年5月~/**a.216**



※不特定多数を対象にした活動を含むため、人数特定不能

Activities of  
Youth  
Ending Hunger

ユース・エンディング・ハンガーの活動

'08

ユース・エンディング・ハンガー (YEH) とは

世界5ヵ国で活動するHFWの青少年組織。海外では若者を主な対象とした開発事業や啓発活動を、日本国内では高校生から大学生を中心としたメンバーが7地域で、チャリティイベントや募金活動、飢餓の終わりを訴える啓発活動に取り組んでいる。

YEHジャパンが実施した全国一斉人文字アクション



3ヵ国で、プロジェクトと国内会議を継続して実施。  
貧困問題解決のための世界的アクションにも参加しました。

海外活動国では、YEHウガンダが養豚プロジェクトを開始（5月）したほか、パイナップル栽培プロジェクトを継続。YEHバングラデシュは、年間を通じての啓発活動や災害復旧支援（1月）に取り組みました。ベナンでは、活動地ベト村と都市部カラヴィの中学生から高校生を中心としたグループが、地域での環境保全活動や衛生管理の大切さを伝える啓発活動を実施しました。

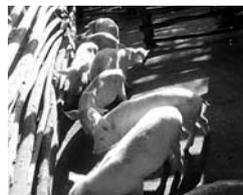
2007年に続いて、バングラデシュ、ベナン、ウガンダの3ヵ国で国内会議を開催（8月）。農村調査や技術研修によって、飢餓を解決するために必要な知識や技術を身につけました。会議にはYEHジャパンから代表各1名を派遣。異なる国で想いを共有する若者が絆を深め、活動の成果や課題を共有する場となりました。なお、国内会議は11の企業・団体の協賛によって開催が実現しました。YEHジャパンによる協賛依頼の渉外

は、支援金を募るだけでなく、飢餓に対する企業の価値観を若者が知る貴重な場となっています。

YEHジャパンでは、全国7地域で高校生から大学生を中心とした若者たちが各地域でチャリティイベントや募金活動を行ったほか、貧困問題の解決を求めて立ち上がる世界的なアクション「STAND UP TAKE ACTION（スタンド・アップ・テイク・アクション）」の一環として全国一斉人文字アクションを実施（10月）。離れた地域に住みながら、心を一つにしてメッセージを発信するという企画のユニークさが評価され、日本のSTAND UP TAKE ACTION実行委員会から表彰を受けました。年2回の全国会議（8月、3月）で活動を創作し、会報誌「YEHラブ」（隔月発行）やポスター、ホームページなどを活用して情報発信に務めました。



YEHベナン国内会議でYEHジャパンメンバーと記念撮影



YEHウガンダメンバーに提供された子豚



学園祭でベナンの料理を販売。海外YEHの支援に



全国会議で年間の活動計画を話し合う



YEHの活動を日本国内で伝えるポスターを制作



YEHバングラデシュが若者の薬物使用反対を訴えるラリーを実施



フリーマーケットで資金集め



学園祭で飢餓の現状を発表

日本 ●面積37.7万km<sup>2</sup> ●人口1億2797万人  
 ●5歳未満児死亡率:1000人中4人  
 ●1人あたりの国民総生産:3万7670米ドル  
 ●平均余命:83歳  
 ●成人識字率:-%  
 (参考資料:総務省ホームページ、ユニセフ「世界子供白書2009」)



重要性が増す市民社会の役割。  
 さまざまな機会に、多くの人と力を合わせて活動しました。



「北海道新聞2008.7.8」サミットにあわせて北海道・札幌で実施したエンディング・ハンガー・ゲームの様子が取り上げられた(7月)



アフリカ流・年末イモつき大会(12月)



ノボディゴント 料理ワークショップ&カレーパーティ(毎月開催)



世界食料デー月間(10~11月)



中学生の事務所訪問(5月)



グローバルフェスタ(グローバルフェスタ JAPAN2008 実行委員会主催)にブースを出展(10月)

エンディング・ハンガー・ゲーム

イベント・講師派遣・EHG

飢餓の現状やHFWの活動を伝え、行動を呼びかけるために、活動説明会やイベントを各地で開催。多くのボランティアによる自発的なイベントへの協力も行いました。

ボランティアが企画するイベントには、料理教室、楽器体験ワークショップ、フリーマーケットへの出店、写真展、チャリティコンサートなどがあり、支援国の現状とともに文化も知ることができる多彩な内容で、幅広い層に国際協力について知ってもらう機会となりました。

体験型イベントとして、「エンディング・ハンガー・ゲーム」(HFWほか2団体主催、7月、2月、11月)、「アフリカ流・年末イモつき大会」(HFW、トライブス主催、12月)などを実施。さらに、連続公開セミナー「食料価格高騰がアフリカに及ぼす影響」(HFWほか3団体共催、5月、7月、10月、12月)、食料

サミット報告会「食料危機～ローマで聞いた南の声～」(HFW主催、6月)なども実施し、飢餓問題への理解を深める機会も設けました。10月16日世界食料デーを含む10~11月を世界食料デー月間と定め、飢餓や食料問題に取り組む6つの国際機関やNGOと共同でお互いのイベントや企画を広報しました。

「アフリカンフェスタ2008」(外務省主催、5月)、「グローバルフェスタJAPAN2008」(グローバルフェスタJAPAN2008実行委員会主催、10月)をはじめ、多数の国際協カイベントにも出展しました。

学校や企業・団体には依頼を受けて、飢餓の現状やHFWの取り組みを紹介するための講師を派遣。また、学校で取り組んでいる国際協力に対するサポートの一環として、中学生の事務所訪問を受け入れました。

- チャリティイベント開催・協力 31回
- 活動説明会開催 27回
- 活動報告会・学習会・交流会の開催 10回
- 国際協力などのイベントへの参加 15回
- 講演会、エンディング・ハンガー・ゲームなどの講師派遣 16回
- 中学生徒などによる事務所来訪 10回

アフリカ開発会議と並行して行った市民社会セッション



G8サミットにあわせ、札幌で「100万人のたんざくアクション」をアピール



屋外イベントでSTAND UP

## アドボカシー活動



食料価格の高騰が活動国に与える影響を伝えた記者会見

世界的な原油・食料価格の高騰などの影響により、飢餓人口が4000万人以上も増加した2008年。HFWは、2000年に各国が約束したミレニアム開発目標（MDGs）の目標1「極度の貧困と飢餓の撲滅」に向けた世界の取り組みが加速するよう、さまざまなアドボカシー活動を行いました。

第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）（5月）とG8北海道洞爺湖サミット（7月）が同年に日本でされる40年に1度の機会であることを踏まえ、両会議に向けた政策提言を行うネットワーク「TICAD IV・NGOネットワーク（TNnet）」と「2008年G8サミットNGOフォーラム（G8フォーラム）」に参加し、飢餓や食料問題が政治の優先課題となるよう、世界のリーダーたちに働きかけました。

TNnetでは、アフリカのNGOと定期的に情報交換し、アフリカの人々の声をまとめた提言文書をもとに、外務省との定期協議会などで、飢餓や貧困に直面する人々にとって必要な対アフリカ支援について議論。G8フォーラムでは、食料問題に関するポジションペーパー（公式見解）の作成に関わりました。

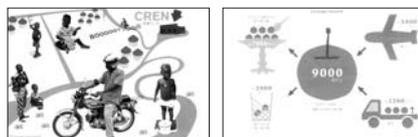
また、七夕に開幕するサミットにあわせて、「これからの世界がこうなっていてほしい」というメッセージを日本の首相へ届け、G8首脳を動かす「100万人のたんざくアクション」を実施しました（4～7月）。

世界的な貧困問題解決ネットワーク「GCAP※」にも継続して参加。その活動の一環として、MDGsの達成を目指す世界同時アクション「STAND UP TAKE ACTION」（STAND UP TAKE ACTION実行委員会主催、10月）で実行委員を務めました。またMDGsを踏まえた企業の社会的責任（CSR）活動の普及を主な目的とした「CSR推進NGOネットワーク」のコアメンバーとして、企業とNGOとの連携を進めました。

活動現場における食料価格高騰の影響と課題を伝える記者会見を実施する（HFWほか3団体共催、5月）など、メディアに対する食料問題の情報発信も積極的に行いました。

※世界100ヵ国以上で活動する貧困問題解決を目指すネットワーク  
Global Call to Action against Povertyの略称

写真で伝えるハンガー・フリー・ニュース



## 情報発信

インターネットを中心とした各種媒体によって、活動紹介、入会・寄付の呼びかけ、ボランティア募集、イベント告知を積極的に行ったほか、6年ぶりにリーフレットを刷新（11月）。のべ20名以上の専門知識を持つボランティアの協力により、ホームページも全面的に刷新しました（2月）。

「年次報告書」（7月）、情報誌「ハンガー・フリー・ニュース」（5、7、10、1月）を80号から83号まで発行。ポストカードによる「写真で伝えるハンガー・フリー・ニュース」（5、12、1月）を17号から19号、メールマガジンを月刊で発行しました。1ヵ国を選んで支援する会員、ハンガー・フリー・パートナーへの報告も随時行いました。



刷新されたホームページ



ハンガー・フリー・ニュース



さまざまな書籍や発行物がHFWを紹介



全国から寄せられた書損じハガキを仕分けする  
カウントボランティアのみなさん

## 支援者の拡大

2007年度に開始した「ひとつぶ募金」参加者の拡大に取り組み、新たに313口（1口1000円/月）の申し込みが寄せられました。気軽に参加できる「書損じハガキ回収キャンペーン」も継続。第7回（2008年1月～5月）は、個人1万4682名、企業・団体110組織のみなさまからハガキや中古CDなどが寄せられ、過去最高の416万1945円の支援金となりました。また、ベナン・ベト村幼稚園の支援を目的とした書損じハガキ回収の取り組み「かいしゅうかいじゅう」では、89の保育園、幼稚園、キッズスクールの参加を得て、90万422円の支援金となりました。

企業の依頼を受けチャリティイベントやボランティア体験会を実施したほか、他団体主催の募金プログラムによる支援を受けました。



「かいしゅうかいじゅう」キャラクター

(特活)チャリティ・プラットフォームが実施したSayLove2008参加企業の商品の売り上げの一部が寄付に



生活協同組合バルシステムのカタログ。組合員のポイントカンパがバングラデシュの有機農業センターへの寄付に

全体収入は1億3436万円（前年度比104%）となり、HFW設立以来最高の収入となりました。

一方、会費収入は法人・個人とも減少し、次年度の課題として残りました（会費収入前年度比91%、会員数前年度比93%）。

会員数 1085名	ハンガー・フリー・パートナー …………… 94名
	グローバル・ファミリー …… 一般/821名 学生/141名
	法人 …………… 29社

(2008年度内在籍数)

寄付者数	個人・企業・団体 …………… 498名 ひとつぶ募金参加者含む
------	------------------------------------

## 組織運営

インターンと専門的な技術を活かしたボランティアや多くの事務作業ボランティアの参加によって、経費を削減でき、拡大する事業を滞りなく行うことができました。各ボランティアグループも、自主的に多数のイベントを企画しました。

組織力強化の一環として、貧困や人権問題に取り組む海外NGOの協力を得て、飢餓・食料問題に取り組む人を対象とした研修会「飢餓・食料問題への対応能力強化プログラム」を実施し（HFW主催、2月）、食料への権利の視点から、関係国や機関が果たすべき義務やNGOが取り組む活動についての理解や知識を深めました。経営基盤強化を目的とする研修にスタッフが参加し（(特活)NPOサポートセンターほか主催、8月～12月）、マーケティング手法を学びました。

海外事務所職員の生活の質を保証するため、現在の給与体系を見直し、新たに社会保障規定を整備しました。

また、組織の透明性の確保を目的として、国際協力NGOセンター（JANIC）の「アカウンタビリティ・セルフ・チェック2008」をJANIC立ち会いのもと実施し、審査基準の40項目すべてを満たしてマークの認証を受けました（2月）。

業務全般においては、拡大する業務に対応した人員体制が整わず、一部の職員に業務負荷が集中し、長時間労働が避けられないなどの問題の改善には着手できず、次年度への課題として持ち越されました。



Accountability  
Self-Check 2008

アカウンタビリティ・セルフ・チェック2008」マーク。JANICのアカウンタビリティ基準の4分野（組織運営・事業実施・会計・情報公開）についてHFWが適切に自己審査したことを示している

人 材	正会員 …………… 48名
	役員 …………… 理事6名・監事1名
	職員 …………… 専従9名・非専従3名
	インターン …………… 25名
	ボランティア
	・ハンガー・フリー・クラブ …… 10クラブ
	ハンガー・フリー・ワールド長野
	キッズ・エンディング・ハンガ ーボディゴント
	ハンガー・フリー・OKINAWA
	TTV Weble Foundation
ハンガー・フリー・いけばな小原	
ハンガー・フリー・板橋	
ハンガー・フリー・フリマ倶楽部	
YEH愛知 OB・OG会	
エトセトラ	
・事務作業（登録数） …………… 55名	
・翻訳・通訳（登録数） …………… 30名	
・イラスト・デザイン・記者 …… 28名	
・バングラデシュチーム …… 6名	
・ベナンチーム …………… 8名	
・ウガンダチーム …………… 15名	

(2008年度のべ数)

\*その他、多くの方にさまざまなご協力をいただきました。

# 特定非営利活動法人 ハンガー・フリー・ワールド

## 2008年度決算報告書

### 収支計算書

2008年4月1日～2009年3月31日

[単位:千円]

資金収支の部	予算	実績
<b>I 経常収入の部</b>		
1 会費収入	31,100	29,584
2 寄付金収入	101,600	95,718
3 補助金・助成金収入	19,800	3,543
4 委託事業収入	0	2,147
5 その他の収入	500	3,369
経常収入合計	153,000	134,361

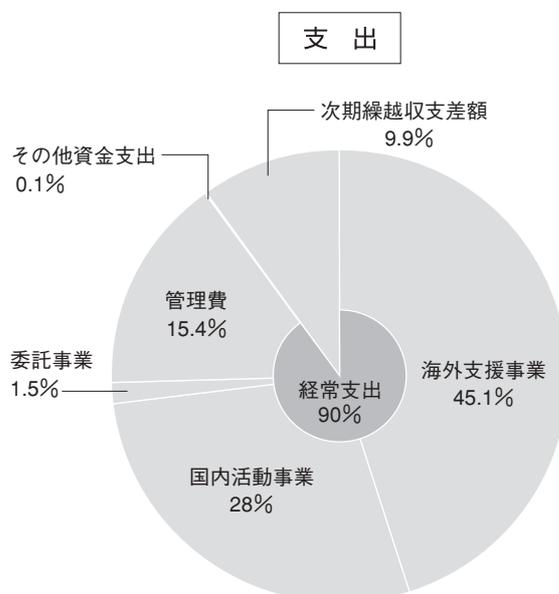
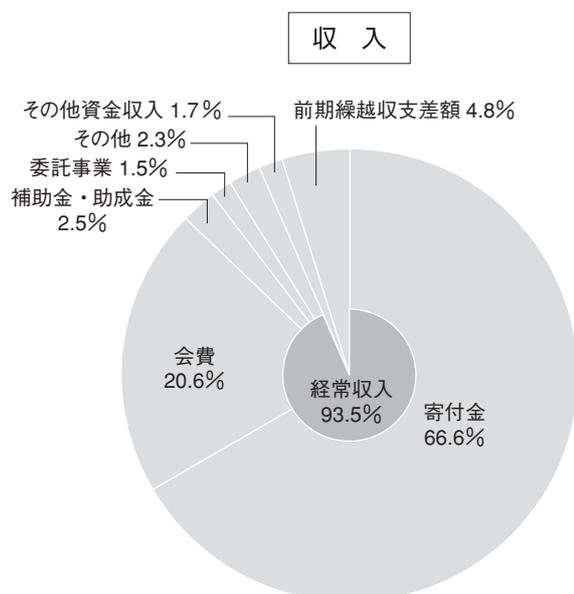
<b>II 経常支出の部</b>		
<b>1 事業費</b>		
海外支援事業費	91,615	64,772
国内活動事業費	34,352	40,238
委託事業費	0	2,147
<b>2 管理費</b>	25,833	22,145
経常支出合計	151,800	129,302
経常収支差額	1,200	5,059

<b>III その他資金収入の部</b>		
保険積立金取崩収入	0	2,404
その他資金収入合計	0	2,404

<b>IV その他資金支出の部</b>		
保険積立金支出	0	147
予備費	1,200	0
その他資金支出合計	1,200	147
当期収支差額	0	7,316
前期繰越収支差額	6,934	6,934
次期繰越収支差額	6,934	14,250

正味財産増減の部	
<b>V 正味財産増加の部</b>	
<b>1 資産増加額</b>	
当期収支差額	7,316
保険積立金増加額	147
長期前払費用増加額	1,076
増加額合計	8,539
正味財産増加合計	8,539

<b>VI 正味財産減少の部</b>	
<b>1 資産減少額</b>	
器具備品除却損	12
器具備品減価償却額	330
長期前払費用減少額	538
保険積立金減少額	2,404
差入保証金減少額	1,076
減少額合計	4,360
正味財産減少合計	4,360
当期正味財産増減額	4,179
前期繰越正味財産額	13,936
当期正味財産合計	18,115



## 貸借対照表

2009年3月31日現在

[単位:千円]

資産の部		
1 流動資産		
現金	580	
普通預金	5,409	
未収入金	7,133	
前払金	2,666	
貯蔵品	50	
流動資産合計		15,838
2 固定資産		
建物付属設備	965	
器具備品	1,741	
減価償却累計額	-1,377	
差入保証金	1,998	
長期前払費用	538	
固定資産合計		3,865
資産合計		19,703

負債の部		
1 流動負債		
未払金	1,588	
流動負債合計		1,588
2 固定負債		
		0
固定負債合計		0
負債合計		1,588

正味財産の部		
前期繰越正味財産額	13,936	
当期正味財産増減額	4,179	
正味財産合計		18,115
負債及び正味財産合計		19,703

### 2008年度監査報告書

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド2008年度  
決算報告書は監査の結果、適正にして妥当であることを認めます。

監事 仁馬 鋭一

2009年6月13日

## 事業費支出の内訳

1 海外支援事業費			2 国内事業費		
女性対象の職業訓練および権利啓発	バングラデシュ	256	広報		5,984
安全な水の確保と衛生環境整備	バングラデシュ	93	啓発		6,520
小学校運営	バングラデシュ	1,651	資金調達・募金活動		28,419
養蜂	バングラデシュ	186	ユース・エンディング・ハンガー・ジャパン活動費		1,426
小学校での栄養改善及び健康管理	バングラデシュ	941	合計 40,238		
農業協同組合およびウィメン・エンディング・ハンガー支援	バングラデシュ	713	3 委託事業費		
女性対象の起業無償支援	バングラデシュ	2,944	合計 2,147		
持続可能な農業普及のための農業訓練センター	バングラデシュ	5,003	合計 2,147		
母子対象のヘルスケアセンター	バングラデシュ	232			
アドボカシー活動	バングラデシュ	1,726			
情報センター・図書館運営	バングラデシュ	1,203			
青少年・成人対象の識字教育	ベナン	3,728			
幼稚園運営	ベナン	1,862			
幼稚園園長舎増築	ベナン	2,312			
権利啓発	ベナン	1,252			
乳幼児と妊産婦対象の栄養改善	ブルキナファソ	3,094			
協同組合支援	ブルキナファソ	1,569			
学校給食	ブルキナファソ	1,754			
公衆トイレ建設	ブルキナファソ	1,584			
井戸建設	ブルキナファソ	2,165			
女性対象の有機果樹植林	ウガンダ	4,323			
カブプ区・水と衛生	ウガンダ	1,403			
井戸建設・管理研修	ウガンダ	2,599			
小学校有機果樹植林	ウガンダ	136			
小学校校舎増築	ウガンダ	1,756			
子どもの権利啓発	ウガンダ	382			
支部運営費		14,695			
準支部運営費		3,413			
ユース・エンディング・ハンガー活動費		1,797			
合計		64,772			
			管理費支出の内訳		
			人件費		14,165
			居住費		3,132
			事務費		927
			通信費		768
			旅費交通費		1,095
			報酬等		1,260
			年会費		116
			その他		682
			合計		22,145

※特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールドは「公益法人  
会計基準」に基づいて会計処理および財務諸表の作成を行って  
います。  
※資金の範囲には、現金・預金・未収入金・前払金・貯蔵品・  
及び、未払金を含めます。  
※特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールドは東光監査法  
人による外部監査を受けており、監査報告書を受領しております。

## 概要 (2009年7月現在)

私たちは今、飢餓のある世界にいます。飢餓が原因で亡くなる子どもは6秒に1人、空腹のまま眠りにつく人は9億6300万人……。

ハンガー・フリー・ワールド (HFW) は、飢餓のない世界を創るために活動する、特定の思想、宗教ならびに政治的意志から独立した非営利・市民組織です。どの国で暮らしていても「飢餓のある世界」に暮らす一員として、世界の人々と共に行動することを呼びかけ、「共創協働」の理念のもと活動しています。

設立は1984年4月。アメリカに本部を持つNGOの日本支部として活動を開始しました。2000年6月には、日本に本部を置く国際協力NGOとして、

- ① 途上国における開発事業の本格的な実施、
  - ② 次世代を担う青少年の主体的な貧困撲滅活動の支援継続、
  - ③ 市民活動としてより広い層の人々への参加の働きかけ、
- などを行うために独立、組織変更しました。

2000年9月には特定非営利活動法人の認証(内閣府)を受け、現在アジア・アフリカの5ヵ国で活動しています。



### ●活動国5ヵ国

#### ●本部

〒102-0072  
東京都千代田区飯田橋4-8-13山商ビル7階

#### ●国内支部事務所

横浜  
〒220-0072  
神奈川県横浜市西区浅間町3-222  
名古屋  
〒466-0059  
愛知県名古屋市昭和区福江2-13-1  
京都  
〒602-0898  
京都府京都市上京区相国寺門前町708

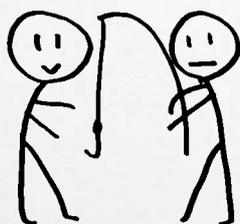
#### ●海外支部

バングラデシュ、ベナン、  
ブルキナファソ、ウガンダ

### ●役員

理事長	齊藤恵一郎	住和不動産株式会社代表取締役	理事	原田麻里子	Think the Earthプロジェクト コーディネーター
副理事長	星野直	株式会社 丸進不動産代表取締役社長		渡瀬のり子	特定非営利活動法人 市民によるガバナンス推進会議 理事
理事	犬嶋由香里	株式会社 井上技研専務取締役		渡邊清孝	特定非営利活動法人 ハンガー・フリー・ワールド事務局長
	清水貴夫	日本学術振興会・特別研究員	監事	上島鋭一	株式会社 上島総合経営事務所取締役
	関口和孝	八王子市役所職員		矢崎芽生	矢崎芽生税理士事務所/矢崎公認会計士事務所

(役職ごと50音順)



貧しい人々が、自分たちの力で  
生活を改善できるよう手をかしてあげれば、  
私たちの支援が何倍にも生きてきます

 **hunger free world** 飢餓のない世界を創ろう

2008年度版年次報告 2009年7月1日発行

発行人 特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド理事長 齊藤恵一郎

編集人 甲野綾子 編集 立山誓一(ボランティアスタッフ)

制作 川村昌 印刷 有限会社明東企画サービス

発行所 特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-13 山商ビル7階

TEL 03-3261-4700 FAX 03-3261-4701 平日 10:00~21:00 土 10:00~18:00

E-MAIL [hfwoffice@hungerfree.net](mailto:hfwoffice@hungerfree.net) URL <http://www.hungerfree.net/>

寄付金振込先 三菱東京UFJ銀行 神保町支店(普) 1053953

郵便振替 00130-6-192373 口座名 ハンガー・フリー・ワールド

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます

 R100

 PRINTED WITH  
SOYINK